

## 令和6年7月近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和6年7月24日（水） 午前9時30分～12時00分

2. 開催場所 近江八幡市水道事業所3階 AB会議室

|         |          |       |
|---------|----------|-------|
| 3. 出席委員 | 教育長      | 安田 全男 |
|         | 教育長職務代理者 | 安倍 映子 |
|         | 委 員      | 西田 佳成 |
|         | 委 員      | 大更 秀尚 |
|         | 委 員      | 圓山 淳子 |

### 4. 事務局出席者

|               |       |
|---------------|-------|
| 教育部長          | 太田 明文 |
| 教育総務課長        | 岡村 祥子 |
| 教育部次長兼学校教育課長  | 富江 康子 |
| 教育部次長兼生涯学習課長  | 清水 和仁 |
| 学校給食センター長     | 眞野 善博 |
| 近江八幡市立図書館長    | 奥村 恭代 |
| スポーツ課長        | 村田 崇  |
| 国スポ・障スポ推進課長   | 伊崎 裕二 |
| 子ども健康部次長兼幼児課長 | 村北 幸司 |
| 教育総務課長補佐      | 夜野 友昭 |
| 教育総務課副主幹      | 竹浪 雄大 |

5. 会議を傍聴した者 1人

### 6. 会議次第

#### 【議 案】

○議第8号 近江八幡市教育委員会表彰被表彰者につき承認を求めることについて（非公開）

○議第9号 令和6年度教育費に関する9月補正予算の要求について（非公開）

### 【協議事項】

- 子ども・若者育成支援事業について
- 部活動強化推進策について
- 幼保小中のなめらかな接続の推進について
- 近江八幡図書館のお盆期間の閉館時間変更について

### 【報告事項】

- 生きる力から生き抜く力まで育成プログラム検討プロジェクトチーム設置要領の制定について
- 近江八幡市教職員働き方改革推進委員会委員の委嘱（任命）について
- 桐原体育館の休止について

## 7. 議事の経過

### (1) 開 会（日程確認）

- ・教育長が7月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認
- ・日程について **承認**

#### 議案

- 議第8号 近江八幡市教育委員会表彰被表彰者につき承認を求めることについて
- 議第9号 令和6年度教育費に関する9月補正予算の要求について  
以上を非公開とすることの提案 **非公開**

### (2) 会議録の承認

- 6月定例会の会議録 **承認**

### (3) 教育長挨拶及び報告

去る7月1日、小西市長主催の総合教育会議が開催され、教育委員の皆様とともに出席させていただいた。内容としては、子ども・若者育成支援事業及び部活動強化推進策ということで、この2つの議題についての意見交換をさせていただいた。

まず、子ども・若者育成支援事業については、これまでの単なる相談にとどまらず、将来の起業あるいは就労につながる体系的な施策のさらなる充実が必要とのご意見等も踏まえて、「教育委員会において施策等の検討を深める」との方向性を、市長と共有させていただいた。

また、部活動強化推進策については、これまで地域移行の方向で実証事業を含め検討実施してきたが、人材確保等の大きな課題があり容易には展望が得られないことから、「部活動のあり方も含め、現在取り組んでいる部活動支援

員等の配置をさらに拡充する等の直接支援の強化策について、教育委員会において体系的な施策の検討を深める」との方向性も、市長と共有させていただいた。

本日は、こうした教育総合会議の結果を受けて、委員の皆様からさらなる忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。

さらに、本日は、幼保小中のなめらかな接続の推進について、これまでの取組を踏まえ、「生きる力」育みプランに沿った第2ステップの取組についても、ご議論をお願いしたい。

#### (4) 議事

##### ◆議第8号 近江八幡市教育委員会表彰被表彰者につき承認を求めることについて（非公開）

【事務局説明】…教育総務課

##### 【採 決】

近江八幡市教育委員会表彰被表彰者につき承認を求めることについて 承認

##### ◆議第9号 令和6年度教育費に関する9月補正予算の要求について（非公開）

【事務局説明】…各所属

##### 【採 決】

令和6年度教育費に関する9月補正予算の要求について 承認

#### ●協議事項

##### ◎子ども・若者育成支援事業について

##### ○教育長

これについては、冒頭で申し上げたように、7月1日に市長主催の総合教育会議があり、その中の議題の1つであった。このことについては、「教育委員会において、今後の進め方について理解を深めるように」とされたため、教育委員会事務局において中身の充実を図ったところである。その検討内容について、生涯学習課から説明願いたい。

##### 【事務局説明】

##### ○生涯学習課

まずは、現状と課題ということで、改めてご説明させていただく。

現在マナビィにおいて、小・中学生については「にこまるルーム」、中学生以降の二十歳までの若者については近江八幡・竜王少年センターの「あすくるHAR」において支援している。令和4年度からは、子ども・若者の相談窓口ということで、こちらの教育委員会でも支援を行っている。それぞれの課において進めてはいるものの、マナビィの施設については、耐震や老朽化に大きな課題があると考えている。

また、本市は、国や県と比較して不登校児童生徒の在籍率が高いことや、ひきこもりが深刻化していることも課題である。

さらには、若者からの相談は、就労に関するものが圧倒的に多い。ハード面の課題があり、若者が一歩踏み出すにはハードルが高く、気軽に立ち寄れる雰囲気とはいえない。

この辺りについて、市長からも「ぜひともプロジェクトを興せないか」という中での、今回の事務局からの提案となり、大きくは4つの面から考えている。

1つ目としては、教育支援機関を集約化し、重層的な支援をしていくことである。特にソフト面では、福祉部局と連携していく。

2つ目としては、若者の就労体験を含めて、起業につながる支援をしていくことである。加えて、昨今においては若者がメタバース空間・仮想空間に浸かってしまっているということもあるので、それもリアルな世界へ引き出すような仕組みづくりを考えていく。

3つ目としては、若者でにぎわうエリアにしていくことである。そこには、図書館等との連携があったり、若者がまちを動かす仕組みの企画であったり、その様な支援も含めて考えていく。

最後4つ目としては、次世代を見据えた生涯学習の拠点としていくことである。

それでは、何をもって取り組んでいくのかということになるが、2つの大きな取組を考えている。

1つは、旧人権センターを中心とした既存施設の改修である。まずは、施設面をしっかりと充実させていくということである。

もう1つは、総合プロデュースの実施である。若者がいろいろな起業に向けて取り組んでいくことや、いろいろな世代の方が入り交ざって支援を受けていくというところには、これまでのやり方であれば殻が破れない。そこから一歩踏み出せるような支援となると、総合プロデューサーが必要になると考えている。

#### ○教育長

生涯学習課から、その後の検討の柱を説明してもらったが、事務局で検討していることから当然私もその検討メンバーに入っており、その基本的な柱を踏まえつつ、一点目として、ハードの整備ということで、マナビィの施設は耐震等も整っていないので、旧人権センターを含めた市の関連施設を改修し、有効に役立てて、新たな事業の機能を支える施設にしていきたいと考えている。

それからもう一点として、相談に来られる方々が、自分の殻の底の方から上の方までは浮上してきても、その殻を打ち破って社会に出て、自らが事業を起こして、経済社会に参画していき、あるいは地域のまちづくりのリーダーになる。これまで、そのようなところまで展望した取組は、あまり例がない。今回は、そこまで目指していくことを考えている。したがって、そのようなソフト運営を具体的にどうすればいいのかということについては、総合プロデューサーを設置して、しっかりとプロデュースしていき、もちろん教育委員会と総合プロデューサー、当事者の方々、関係者の方々と相談しながら有効なプログラムを考えていくわけだが、ハード整備とソフト面のプロデュースということを取り組んでまいりたい。

今後においては、議会にも説明が必要であると考えており、7月1日の市長主催の総合教育会議及び本日の定例会においてご議論いただいた成果を、その説明のための資料に反映していきたいと考えているので、忌憚のない意見交換をお願いしたい。

## 【意見等】

### ○安倍委員

まず、総合窓口について、若者が一步入ったときに「来て良かった」と思える窓口となっているか。勇気を出してきてよかったと思われる顔が入口にあるか。

それと、重層的な支援ということだが、縦の関係ではなく横の関係として、福祉分野とどのように連携していくか。例えば、「これは向こうの分野だから」ということで、市役所の窓口の方を案内するのか、又は市役所から職員に来てもらうのか。相談者によって福祉がメインの話になることもあるかもしれないが、場所の話にもなるが、「やっと相談に来たものの、実はここではない」というようなことにならないように、取組としてどのように福祉分野と連携するのかを含めて総合的に協議してもらいたい。

また、図書館との連携について言及があったが、図書があれば癒しになると思う。

それから、起業についてだが、それまで外へ出ることもなかなかできず、ひきこもっていた方には、非常にハードルが高いと思う。しかし、最終の目標を就労と考えると、大きな問題として考えなければならないと思う。先日出会った方がおっしゃっていたことだが、「ともすれば、社会に合わせていく考え方をしがちであるが、ひきこもりや発達障がいの人を見ていると、人が社会に合わせるのではなく、社会が人に合わせるスタンスであるべき」とのこと、目から鱗であった。そのように考えると、単に待っているのではなく、自分たちが自ら開発していく、探していく、求めていくという姿勢を大事にしなければ、本当の意味での就労には出会えないと感じた。

## ○教育長

総合プロデュースや現時点での事業スパン、ビジョン等の説明を生涯学習課からお願いしたい。

## ○生涯学習課

安倍委員のご質問と、これからのビジョンを含めてお話させていただく。

まず、総合窓口の件だが、教育現場の声や行政職員の視点だけでなく、社会で求められていることを反映していくという意味でも、総合プロデューサーが施設のなところも含めてプロデュースしていけるような取組を進めていきたいと思っている。

総合プロデューサーをどのように決めていくのかということについては、時間的な制約もあると感じているが、令和7年の年明けぐらいにはプロポーザル形式でプロデューサーを決めたい。しかし、それを待っていると建物等に関してはなかなか進まないで、今秋頃に設計業務を進めていけるようにと考えている。令和6年度末頃には同時並行で進めていき、令和7年度には工事を開始し、令和8年度の秋か冬の開始を目指したいと考えている。

それから、福祉部局との連携についてだが、福祉部局においてもこの取組は必要と感じてもらっている。今年度に入ってから、教育委員会とのつながり会議のようなものを重視いただいております、我々も参加させていただいている。ソフト面においても連携を深める必要があるということで、整備を含めて検討しているところである。言葉は悪いが「たらい回し」となることが一番良くないと思っている。

それと、起業についてだが、なかなか一步を踏み出して相談してくれる若者がいないのが現状である。企画前段階のものにはなるが、例えば、若さにあふれていて仕事は丁寧だが朝がなかなか起きられないような若者たちが、インキュベーターと共に何かおもしろい事業ができないか。こだわったことができる若者が集まって、「メニューもないこだわり10枚だけのピザ屋」のようなことができないか。みんなが集まってパッケージのデザインをどうしたらいいか、中身の具材をどうしたらいいか、そこだけにこだわることができる若者もいるであろうし、そういったことを全て起業支援いただくことで一步が踏み出せるのではないかと考えている。

そして、「場所はどうするか」ということについては、例えば、整備をして行くところにレンタルスペースのようなものを設ける。2～3か月限定でプロジェクトを起業していき、もっと続けてしたければ、次に自らつなげていく。そのような取組のサイクルをつくっていくことで、若者たちが一步踏み出せるビジョンに迫れるのではないかと考えている。

図書館についても、例えばということでの話だが、若者たちが集まれる場所にしていくということで行くと、図書の活用が有効である。環境的な部分も含めてだが、本を手にとってもらうことで集まれる。また、若者が図書の修繕やラベリング等の図書館業務にも関わることで、就業につながるステップにな

るのではないかと考えている。

○西田委員

2点お聞きしたい。

一点目は、今のお話を聞く限りかなり壮大な事業で、実現できたらとてもいい取組になると思うが、計画が計画だけに、生涯学習課だけで運営するのは難しい事業であると思う。できれば、福祉部局を含めての「連携」だけでなく、このためのプロジェクトチームのようなものを立ち上げて、いろいろな課の職員が在籍し、商工会議所の人員も含めるなど、そこで完結できるような組織として対応すれば、より良いものになるのではないかと思った。

もう一点は、秋頃から設計に取り掛かりたいとの話で、レンタルスペースもあるということだが、できればカフェのような気軽に行けるスペースを設計段階で入れていただくと、今の若者は集まりやすくなるのではないかと思う。

○生涯学習課

これまでも子ども・若者相談窓口において、就労支援の観点で商工振興課とも連携しているので、この整備に当たっては、さらなる連携を進めたいと考えており、ご意見を参考にさせていただきたいと思う。

環境についても、カウンターの高さだけでも変わってくる。現状施設はノックをしないと入れない状態なので、カフェのような考え方を含めて検討していきたいと思う。

○圓山委員

カフェの例だが、デイサービス等の高齢者施設とのコラボ等によって、人生の先輩である高齢者と関わることで一歩でも地域に出やすくなる環境がつくれると思うので、そのように推進していただけると嬉しい。

○生涯学習課

若者たちが地域活動やフェスティバル等のまちづくりの企画に関われるような部分も大事にしていきたいので、反映させていければと思う。

○大更委員

大変壮大な取組であるが、若者で賑わうという面と若者が相談しに行くという面とが混在することになると思う。もちろん気軽に行けるようにもしてほしいが、「どうしたらいいのか」を相談しに行きたい者が逆に入りにくく感じないように配慮していただきたい。将来的には「生涯学習センター」のように、若者だけでなく多くの世代の方が来てもらえる場所になり、関わり合える環境になれば良いと思う。

西田委員がおっしゃるように、これを教育委員会だけで進めるのは無理があると思うので、横の広がりをもって協力して進めていければと思う。

○生涯学習課

委員のおっしゃるとおりで、オープンなスペースを求める若者もいれば、クローズな環境を求める者もいるので、それも総合的な視点でもってプロデュースに反映できればと思う。

また、いろいろな方との関わりを大切にしていきたいと思っているので、人生の先輩との関わりや、本人のキャリアにとって刺激を与えられるような仕組みづくりも考えていきたい。

○教育長

西田委員のおっしゃるように、私もいろいろな分野との連携が可能な体制づくりが必要であると考えている。生涯学習課の職員だけでこれを運営していくのは絶対に無理であると思っているので、いろいろなところで理解が得られればの話になるが、施設を設計し、プロデュースし、工事をしていき、令和8年度の秋頃にグランドオープンしようとなると、それだけでもかなりのマンパワーが必要になる。できれば早い段階で、そのための開設準備室のようなものを置いて、そこに新たに人員を配置して取り組んでいくようなことが必要であると考えている。

それと、館の中でいろいろなソフト面が立ち上がることになるが、いくなれば学校のクラブ活動のようなものがいくつもでき、それぞれに専門の経験者がコーディネーターになって、「参加したい者は、手を挙げてください」ということで、相談者も手を挙げるし、普通の児童生徒もそこへ入ってくる。実際に市子連では地域を超えたクラブ活動を興しており、子どもたちが入っている。そして中学生になっても、指導者として子どもたちを指導することで活躍しているといったこともある。相談者だけでなく、そうでない人たちも参加できるような仕組みを、準備室の段階から検討していければと思う。それも含めて総合プロデューサーがプロデュースし、設計者と対話しながら改修のデザインも決めていくようなイメージで進めていければと思う。

○安倍委員

人との出会いがひきこもりの改善につながることもあるが、人と出会うことをストレスに感じている方も大勢いる。教育相談では、あの暗い部屋で話を聞いてもらった方が良いという方もいる。これからつくっていくのであれば、そのどちらのニーズにも合うよう場の配慮に努めることが大事だと考える。

○教育長

これまでの意見をまとめて、9月市議会定例会の前段階での会派説明の場で説明したいので、その前に各委員には意見照会を行いたいと思う。

(10分休憩)

◎部活動強化推進策について

○教育長

これについても、総合教育会議の議題の1つであった。学校教育課から説明願いたい。

【事務局説明】

## ○学校教育課

部活動の現状と課題、今後の方向性についてお話しさせていただきたいと思う。国は、部活動の地域移行について、休日の部活動において地域の環境の整備を着実に推進する等、段階的な体制の整備を進めることとしており、地域クラブ活動への移行が困難な場合は、地域連携による合同部活動の実施や部活動指導員等の活用についても示している。

そこで、本市においては、昨年度より国・県の委託を受け、八幡西中学校のラグビー部を拠点校地域クラブとして指定し、運動部活動の地域移行等に向けた実証事業を進めてきた。また、近江八幡市立中学校における休日の部活動の段階的な地域移行を推進し、生徒が多様な活動を体験できる機会と、将来にわたり継続して活動することができる環境の構築を目指し、昨年度から「部活動地域移行推進協議会」を設置し、協議を行っている。

しかし、本市の今後の部活動の方向性については、まだまだ不透明であり、行き詰っている現状がある。まず、運動部活動の地域移行等に向けた実証事業では、八幡西中学校ラグビー部を拠点校の地域クラブとして指定したが、昨年度は他の3中学からの参加生徒はなかった。今年度は、八幡中学校から1名参加しているが、地域指導者が4名と、他中学からの参加生徒より指導者の方が多い現状がある。また、今年度から八幡中学校ソフトボールも拠点校地域クラブとして指定し、8月から活動を進める予定だが、こちらも他中学からの参加は1名となっている。

今後、市として部活動の価値をどのように捉え、持続可能な体制をどのように整えていくかが喫緊の課題となっている。地域移行という漠然とした動きで、はたして市内の中学生全員に対して受け皿を用意できるのか、県が考える推進の方策・体制づくり・人づくり・環境づくりをどうしていくか、できるだけ早く結論を出したいと考えている。その一つの案として、市教育委員会事務局内に部活動改革推進室を設けて、専任指導員やコーディネーターを配置する等、直接指導のあり方も含めて検討しているところである。

## ○教育長

これについても、7月1日の総合教育会議後に教育委員会事務局にて更なる検討を重ねており、教育部長とともに4中学校に伺い、教員の皆さんと意見交換を行ってきたところである。今第1回目の4校との話合いが終わったところで、今日の教育委員会委員の皆様のご意見を踏まえて、第2回目の話合いを予定しているところである。

教員の皆さんのご意見をお伺いしていると、教員の中には「このまま教員として部活動指導も続けたい」という方もおられたが、教育課程の指導も部活動の指導もしている教員の中にも「個人の時間がないことへの悩みがある」という方も大勢おられた。それ以外にも、「そもそも部活動は教育課程ではないため、学校の部活動はない方がいい」、「地域でしてほしい」、言い換えれば「教育課程に専念したい」、「生徒指導に専念したい」という方もおられた。そして、

その数も大体同じような割合であるということが話合いの中で分かってきた。

国県の方は地域移行であり、本市においてもモデル校を設置して取り組んでいるが、他校からの参加がない中で、このまま2年、3年と実証実験を続けることが、今在籍している子どもたちにとって改善につながるのかということから、速やかに改善できる方法はないのか、抜本的にできることはないのかの2つを考えたときに、事務局としての案は、平日の部活動の実施時間を16時45分には終了する、いわゆる時間短縮があるのではないかと。もしこれを実施すると、職員の働き方改革にもつながり、即効性があるのではないかと思う。しかし、それだけでは部活動の強化推進にはつながらない。やはり抜本的な支援策が求められる。また、本市においては、今も十分ではないものの部活動支援員を派遣しており、教員の評価は高いことが分かっている。よって、これをもっと充実させる方法もあるのではないかと考えている。

また、先ほども体制の話が出たが、教育委員会事務局に部活動強化推進のための室を新たに置き、そこに各校の部活動をコーディネートする人員を配置することを考えている。その方たちが実際に4校に机を置き、その中学校の部活動をコーディネートしていく。それだけでは、部活動支援員が足りないので、直接部活動を支援する非常勤講師を配置する。そのような体制にしていけないかと考えているところである。

## 【意見等】

### ○安倍委員

現中学校でも、部活動に朝7時から出かけているのを見かける。部活動は、中学校生活の中で子どもたちが輝いている場所になっていると思う。

部活動は教育課程外であるが、市教育委員会として、どこまで人や費用を投入できるか。教員の働き方改革を含めて検討すべき時期に来ていると感じている。

モデル校を置いて実証実験をしたもののうまくいったとは言い難い現状の中で、室を置き各校に配置するという考えは分かるが、それには多くの人員と費用がかかると思う。もう少し具体的に、いつ頃どの様な形でお考えなのか、分かる範囲でご教示願いたい。

### ○教育部長

これまでは、部活動については、ご承知のとおり先生方の熱い思いで運営いただいているところである。部活動を評価していくに当たっての試算の試算のような数値にはなるが、対価については、1億数千万円相当の活動を先生方にいただいていることになる。素案の素案になるが、今後については、教育委員会内に室を置き、室長及び部活動のコーディネーターを数人配置し、部活動のコーディネートをしていきたい。そう考えると、約1億数千万円が必要になるであろうということである。

先生方にも多く意見をいただいているが、やりたい意欲を持たれている方

の意思も考慮して対応したい。3割程度の方々が「やりたい」とアンケートで示してもらっている。そうすると7割の不足をどのように対応するかを検討する必要がある。スケジュールについては、今秋に着手していければと考えている。

○大更委員

これまで先生方の熱意や努力により支えられてきたが、言い方は悪いが、金銭的にいえば約1億数千万円の対価なしにさせていただいてきたということで、この数字が分かっただけでもこのプロジェクトには意味があると思う。また、検討が1年だけで終わることなく続いていけばありがたい。

○圓山委員

以前聞いた話だが、安土中学校では陸上部がなく、陸上を続けたい方は、地域の陸上クラブチームに参加されている。そのチームに参加している生徒が、中学校の名前で中体連に出たいと言ったときに、中学校は「名前を貸すことはできるが、手続等は全て保護者でお願いします」とのことで、保護者の負担が大きく長続きしなかったと聞いている。今回の取組によって改善するのか。

○教育部長

安土の陸上の件については承知しているが、現時点で民間の力でやっていた部分については、できるだけ民間の力をお借りしながら進めていきたいと考えている。ただ、生徒の要望で「新しいクラブを立ちあげてほしい」ということもあろうかと思うので、新しい部活の設置も含めて新たな室で検討して、部活動の強化につながるよう取り組んでまいりたい。

○西田委員

3割程度の教員は「引き続きやっていきたい」ということであったが、続ける意欲のある方は監督となり、非常勤講師となる方はコーチのような立場で入ることになるかと思うが、教員が「やりたくない」という場合は、非常勤の方が1名ずつ監督とコーチとして入ることになるというイメージを持っているが、それで大体合っているか。

○教育部長

希望される先生がおられる場合は、委員のおっしゃるとおり、先生方の希望を尊重することが理想と考えている。

○教育長

今日のご意見を踏まえて、7月25日以降に第2回目として4中学校を回る予定であり、その結果については、後日定例会で報告させていただく。

そして、これらを含めて市議会へ説明をしたいので、その前に各委員に内容を確認していただきたいと考えている。

◎幼保小中のなめらかな接続の推進について

○教育長

学校教育課から説明願いたい。

## 【事務局説明】

### ○学校教育課

本市では、近江八幡市就学前教育・育成指針「学ぶ力向上にかかる「生きる力」育みプラン」に基づき、育ちと学びをつなげる校種間の「なめらかな接続」を意識した系統的な指導や教育課程の編成・実施を目指しており、特に令和3年度から金田小学校区での先行した実践的研究を通して、子どもたちの「学びに向かう力」の育成につながる指導内容の工夫・改善を進め、保育・授業の質的向上を図ってきた。

また、様々な形態の就学前施設から子どもたちが入学してくる本市の現状を踏まえ、どの就学前施設から入学してきた子どもについても、小学校入学時の不安を軽減し、スムーズに小学校生活をスタートできるよう金田小学校区の先行事例を参考にして、市内の全小学校区においても取り組むことも目的としている。

これまでの取組として、令和3年度から本市教育研究所員による幼保小の円滑な接続に関する研究がスタートし、研究員が就学前施設に出向き、定期的に発行する通信により園児の活動内容や学びの姿、環境づくり等をお知らせし、小学校教員が改めて意識するきっかけとなった。

令和4年度には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を広く周知するため、リーフレット「幼保小接続カリキュラム作成の手引き」を幼児課と学校教育課が連携して作成検討委員会での意見をもとに作成し、市内幼保小全職員に配布した。

令和5年度からは、金田小学校区において、県の「学びに向かう力推進事業」の指定と幼小接続推進事業加配の配置を受け、目指す子ども像として「豊かな生活経験をする中で、自分の思いや考えを表現し合える子」を掲げ、金田東保育園、ありす保育園、金田幼稚園、金田小学校、学校教育課、幼児課で研究を進めており、昨年度は、金田小学校区の校園が一緒になって、多くの研修会を開催し、あわせて、加配通信の発行、ドキュメンタリーテーションの掲示、図書室見学・学校司書によるオリエンテーション、図書委員による読み聞かせ、運動会・音楽会の練習見学、保育体験・校内研修への参加、1・2年生の授業実践に取り組んだ。

次に、研究指定2年目の今年度の取組を紹介させていただくが、令和6年度の実践の1つ目の柱として、幼保小の全職員による双方の子ども理解・共通の視点を確認することである。該当学年や担当者だけではなく「全職員で」というところが大きなポイントである。

2つ目は、昨年度作成した幼保小接続カリキュラムの実践、検証と見直しである。

3つ目は、日々の保育・授業改善につなげることである。目の前の子どもを出発点に、「もっとやってみたい」が生まれる保育や授業を構想し、子どもた

ちの学びや気づきの質を高めていく必要があると考えている。

これまでの成果としては4項目あり、1つ目として、子どもの「やってみたい」気持ちを大切に保育や授業づくりを行うことで、子どもの意欲が高まり、実現に向かう本気の思いが主体的な活動を創り出すことができた。

2つ目として、「やってみたい」という意欲をつないでいくことを保育・授業づくりの共通の視点としてきたことで、架け橋期に当たる年長から1年生までの2年間は、幼児期の経験や学びの積み重ねの上に小学校での学びが形成されることによって、学びの幅が広がったり、気づきの深さが生まれたり、探究しながら共同的に問題解決する行動力が積み重なって形成されていくことを子どもの姿から実感することができた。

3つ目として、各園では活動後に振り返りタイムに取り組んでおり、園児が話し合いの良さを感じ、協同的に活動を作り出す力を形成することができた。その力を小学校でもつなぐことで、より探究的に、より共同的に学びを形成していくことができると実践を通して感じることもできた。

4つ目として、子ども観・指導観・保育観を共有し、実践してきたことで、自然に、この時期の子どもたちの学びと育ちをつなぐ保育・授業づくりを進めていくことができることが分かった。

しかし、課題も3つあり、1つ目に、幼保小ともに「やってみたい」がかなえられる保育や授業の実践を重ね、そこから得られる子どもの姿から、さらに架け橋期のカリキュラムを検証し続けていくことが必要である。

2つ目は、加配教員の配置がなくなっても、持続可能な体制や方法を考えることが必要である。

3つ目は、接続期の担任だけでなく、全職員での共通理解が必要である。

最後に、本市において、幼保小接続の中で大事にしていきたいことをお伝えさせていただきたい。幼児期の遊びの過程の中に学びを見取り、子どもとともに保育を作っていくこと。保育者が、個々の子どもの考えや気づきをつなぐこと。そうすることで、自分の考えを出し、友だちの考えを知り、視野を広げることができる。一人の疑問がみんなの疑問となり、一人の気づきがみんなの気づきへと導かれる。さらに、幼児期から、子どもたちの心動かされる体験を積み上げること、そして、それを小学校だけではなく中学校にもつなぎ、小学校・中学校でも、幼児期の心動かされた経験の上に、子どもたちの生活経験と結びつけた授業を創っていくこと、その積み重ねが、子どもたちの生き抜く力につながるのではないかと考えており、研究を進めているところである。

#### ○教育長

なめらかな接続について、本市がこれまで取り組んできたこと、今年度取り組もうとすること、そして「これからどうしていこうとしているのか」について、概略的な説明をさせていただいた。まずは、これまで取り組んできたことを踏まえて、これからどのようにこの取組を展開していくのかについてご意見を賜りたいと思う。

## 【意見等】

### ○大更委員

「全職員による」ということが、大変重要であると思っている。どの先生にも「幼保小接続プログラムはこう進んでいるのだ」ということを分かってもらい、一緒に取り組んでももらいたい。

また、幼保小だけでなく、小学校から中学校への接続も含めて、長いスパンで考えることが大事であると思う。

### ○安倍委員

このことについては、去年から始めたというわけではなく、遡れば何年も前に着眼点をしっかりと持ち、カリキュラムを研究策定し、発表大会にも報告されてきたが、全市には広がっておらず、少し弱いと思う。というのも、昨年研究会にすら来ていない状況があったり、今年は全校園が参加するのかがあったり、そういうことからすると、全員がしっかりと同じ方向を向いているのか。

「本当に大事なことである」と全校園の職員が共通認識のもとに取り組んでもらいたい。どこの園から小学校へ来ても同じ育ち・学びが望めるということは、非常に大事であると思う。

昔は、「待っていれば先生が教えてくれる」教授型の授業で先生の言うとおりにしていればよかった。右へ倣えの画一的な教育の中でやってきたと思う。ただ、それでは育たないということが分かってきて、「生き抜く力」を求める教育、保育になっている。その基本は、子どもが主人公であること、子どもの主体性を求めるものであると思う。昨年度の金田幼稚園、ありす保育園、金田東保育園と金田小学校の接続においては、すでにそこを見せていただいた。これは、やはり全学区に広めていき、定着させる必要がある。去年と今年だけのモデルで終わらないように、継続して取り組んでいただけることを期待している。よろしくお願いいたします。

### ○学校教育課

先日、全小学校区の小学校担当者と就学前担当者が集まっていたき、現状の把握をさせていただいた。やはり安倍委員がご心配されているとおり、校区によって差がある状況を把握したところである。引き続き、小学校区での幼保小接続カリキュラムの研修会を設けてくれているところに学校教育課の指導主事も寄せていただき、指導助言をしながら一緒につくっていくという方向性で取り組んでいきたいと考えている。

### ○安倍委員

私立の保育所は、本当に最小限の人数でやっておられる。公立もそうだが、「研修や研究等は次の段階の話で、まずは子どもの命を今日一日守ることが先決である」という状態である。では、どのような体制をもってそのことを可能にしていくか。それは、要請があってから動くのではなく、こちらから出向いて、そこで一緒に研究していくという体制、一歩踏み出した前向きな体制が

必要になってくると思う。

それと、一つ確認したいのだが、「加配教員がいなくても持続可能な体制や方法を考えていく」とあるが、加配教員は「必要だから置いている」のではないのか。

○学校教育課

金田小学校区で令和5年度から県の「学びに向かう力推進事業」の指定を受けたわけだが、前回の北里小学校区で受けたときは接続加配という教員がいなかった。

○安倍委員

加配は接続加配ということか。承知した。

○圓山委員

以前金田校区の研究の際もお話させていただいたが、ありす保育園では小さな雑巾がたくさん干してあった。その雑巾は、子どものサイズに合わせた保護者の手作りだと聞いている。その保育園では掃除の時間があり、年長さんが雑巾がけをされているそうで、園がとてもきれいに保たれていた。先生が掃除するだけでなく子どもが掃除することで、建物も大事にする教育につながっていると感じた。掃除の時間を小中学校だけでなく、幼稚園、保育園、こども園へ、ぜひともつなげていただきたいと思う。そして、できれば家庭にもつながってほしい。ものを大事にすることは、人を大事にすることにつながると思うので、ぜひお願いしたい。

○西田委員

「幼保から小学校へ」の接続はもちろんだが、「小学校から中学校へ」の接続、市教育委員会の範疇を超えるかもしれないが「中学校から高校へ」の接続というところまでつなげて行けると、より良いと思う。

○教育長

今日は、この「学ぶ力向上にかかる「生きる力」育みプラン」の真ん中の表の部分をご議論いただいたが、いただいたご意見を踏まえて、今までのモデルだけに終わらず、市全体に展開していくということで、教育委員会として一歩踏み出した対応を進めていきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

◎近江八幡図書館のお盆期間の閉館時間変更について

【事務局説明】…図書館

【意見等】

(特になし)

●報告事項

## ◎生きる力から生き抜く力まで育成プログラム検討プロジェクトチーム設置要領の制定について

【事務局説明】…学校教育課

### 【質問等】

#### ○教育長

イメージとしては、「生きる力、あるいは生き抜く力とは、どういうものか」、「定義的にはどういうことか」等を含めて、できれば幼保小中を貫くような「生きる力」も育て、その「生きる力」を土台として「生き抜く力」まで育てていくような、先ほどの雑巾がけのようなことも含めた具体的なプログラムを皆で共有できないかというイメージを持っている。来年度本格的に教育研究所において体制も整えて研究を開始したいと考えており、それに先立って今年度後半からこのプロジェクトチームを立ち上げて、来年度教育研究所において研究するための仕様書をあらかじめ用意できないかという思いがある。ご意見があれば、よろしくお願いしたい。

#### ○安倍委員

「子どもを育てるのは学校だけではなく、地域も家庭も含めてである」ということの一体性が表れており、このプロジェクトは素晴らしいと思う。先程の金田小学校区の実践と重なるが、園が親と子どもの育ちの場所としてどう情報提供できるか。子どもが育って、親も一緒に育っていき、地域も育っていく。ぜひ進めていただきたいと思う。

#### ○西田委員

第3条に「チームは、委員9人以内で組織する」とあるが、このような委員会的な組織は、通常であれば「何号委員」ということで、例えば、第1号委員として「学識経験を有する者」のように定めることが多い。今回は、具体的には書かれないが、どういう方を想定されているか教えていただきたい。

#### ○学校教育課

現時点では、小中学校長、公私就学前施設の園所長等を考えている。

## ◎近江八幡市教職員働き方改革推進委員会委員の委嘱（任命）について

【事務局説明】…学校教育課

### 【質問等】

（特になし）

## ◎桐原体育館の休止について

【事務局説明】…スポーツ課

【質問等】

(特になし)

8. その他

9. 閉会                      教育長が7月定例会の閉会を宣言